

Structure Kansai №18 '87.6

第6回関西支部総会開催

第6回構造家懇談会関西支部総会が開催されました。

○支部総会

日 時 昭和62年4月23日（木）

13:30~14:15

会 場 建設交流会館 603号室

出席者 正会員：48名 委任状：60通

司 会 俣野博氏

議 長 藤田幸司氏

書 記 柏木良雄氏

議 事 61年度事業及び決算報告、会計監査報告と、支部理事の改選が行われ、役員には支部長

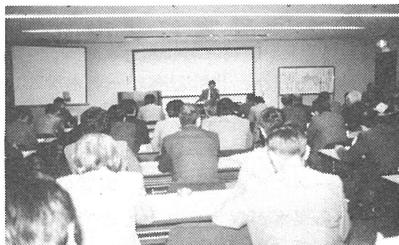
関西支部長挨拶

久 徳 敏 治

当支部も昨年11月に創立5周年を迎え、着々と成果をつみ重ねて来ております。その間私達をとり巻く環境の変化も著しく、ハイテク化、キヤド化が進み、例えば弊社の設計部においても製図版の必要がなくなるという事態になって来ております。このような事は、私が入社した昭和30年代では考えも及ばなかったことなのです。構造技術の進展を振り返りましても、終戦後の混沌とした時代から、昭和30年代の復興期、昭和35年後半からのオリッピックや万博の大空間時代、続く超高層建築へ、又昭和50年代以降は原子力建屋の厳しい耐震安全性の確保のための旺盛な技術開発とともに構造設計技術の底上げ、さらに昭和60年前後の新耐震設計法による斬新な設計法の導入などを経て、建設省では1985年を建築ハイテク元年と位置づけ、先端技術専門官制度を設け、新しい技術に対する即応体制を整備するなど前向きの姿勢をとっております。又昨今は構造新トリオとして空気膜、免震、RC超高層と世間をかまびすしくさわがせておりますが、これらの新しい技術に対しても構造家懇談会を中心として研究活動を行い、社会のニーズに対応する必要性を痛感いたしております。

に久徳敏治氏、副支部長に青柳司氏、能勢善樹氏が選出され、又新任として岡田克幸氏、福島孝之氏、馬瀬芳知氏が選出され、上記6名以外に7名計13名が選出された。引続き支部長挨拶、62年度事業計画、技術委員会活動、支部予算審議等が行われ、総会を終った。又61年度のJSCA賞は、山田裕治氏が受賞された。

○定例研究会 技術委員会基礎分科会 「基礎構造における実務上の問題点、



幸いなことに、正会員も1,000人の大台を超えること関西支部も200人にせまろうとしております。この数を背景にして会としては法人化をめざし、一人前になる努力を当面の目標にいたしております。又職能や構造士の考え方にも一つのけじめをつける大切な時期として今年は考えておりますので、なにとぞ皆様方のご協力と、懇談会を前進させるべきご支援をお願いいたします。

61年度 JSCA 関西構造家賞について

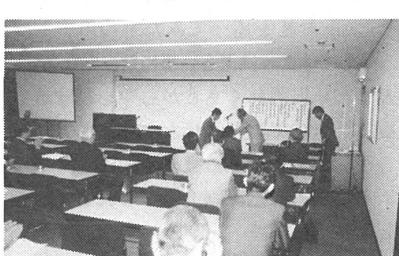
能 勢 善 樹

表彰選考委員会で審議の結果、61年度表彰は正会員山田裕治君の「沖縄サンマリーナホテルの構造計画と設計」に関する業績に決定しました。このホテルは、沖縄恩納村の海岸に直交して建てられた10階建のSとSRCの混成構造物で、西側客室でありながら、どの室からも海が望めるように、海から離れる程、又、下階になる程、室を前面に出す工夫がされていて、その為構造体は、海側矩形ラー

アンケート調査結果から"をテーマとして、各委員より報告があり、引続き関西大学の八尾真太郎先生、大阪市の坂平哲也係長により同テーマに対しての講演が行われた。

○懇親会

総会、定例研究会終了後同館702号室に於て、境敏博氏の司会で懇親会が開かれ、水畠先生、阪口先生、八尾先生をはじめ正会員38名、賛助会員19名の出席で、なごやかなひとときを過ごしました。



メン、山側45°勾配の山形ラーメンとなり、西側H、P曲面をなす、極めて特異な形状をしているものです。山田裕治君の、建築家との企画計画に参加協力する過程で、斜めの柱と水平梁の応力上の問題、特に仕口部の問題を実験と数値解析で確かめ、柱脚部に生じるスラストの処理や建物のねじれ応力処理等、困難な問題を構造計画の上で適切な解決をされた事に対して、JSCA賞に十分価値のあるとして贈られたものです。

定例研究会

日時 昭和62年4月23日(木)

会場 建設交流会館 603号室

参加 85名

No.13号の技術委員会報告でも、中間に報告されていたが、今回アンケート結果を、質問の種類、内容別に整理し、解説を加えて今回まとまった形で報告された。アンケートの質問内容は、未だ定量的に把握されていない種類のものが多く、いわば問題点を集めた様な内容になっている。140頁にも及ぶ報告書の中で、各委員が各自分担して解説されており、特に文献については会員諸氏に大いに参考となると思われる。又これらのアンケート報告に関連して、関西大学の八尾先生より、地盤の土質の分類について、大阪市の坂平哲也係長からは行政上の取扱い等について興味深い講演が行われた。



選考委員会から
「今回の賞に推薦されました。」と電話を受けた時は、気軽に「あ、そうですか。有難うございました。」とお礼を述べてみたものの、しばらくして「これはえらい事になったなあ。」とまどいと照れくささが心中を駆け巡り複雑な気持で胸が一杯となりました。数日後、他の委員から賞の対象は「マリーナホテルの構造計画」と「これまでの設計に関する業績」という事を聞かされ、独立の年、創作なくしては設計はありえないと思う構造人生に於て、何人かの理解を受けた事がうれしくてたまりませんでした。JSCAに於る良き人達の親交、御教示を深く感謝しております。賞は又、恩師平田所長への恩返しの一つと考えさせて頂きたいと思っています。

このホテルは10数年前、現位置の東側にオーソドックスな形で実施設計されていたのですが、以降沖縄での観光事情も様変わりし、この度規模を拡大し、海水浴場へ建設される事となつたのです。当地周辺は沖縄の中でも人気の高いリゾー

基礎構造における問題点

一アンケート調査結果から

1. 調問Ⅲの回答内容

具体的記入数 57件

回答内容内訳を以下に示す。

分類	項目No.	項目	回数			合計
			設計上	施工上	検査上	
1.地盤・敷地条件	1-a	沈下性状・沈下量把握	3	1		4
	1-b	液状化の可能性の有無	1		1	
	1-c	地盤改良の提案、工法選定		1	1	
	1-d	地下水位の決定	1		1	
	1-e	支持層の決定	2	2	1	5
	1-f	斜面安定解析・施工	2		1	3
	1-g	隣接建物への影響				
	1-h	施工計画の適否				
	1-i	その他()				
2.地盤調査	2-a	調査項目選定		1	1	
	2-b	調査深度決定				
	2-c	調査本数決定	2		2	
	2-d	その他()				
3.直接基礎	3-a	形式設定(積立、布設等)				
	3-b	支持力決定(N値、φ値)	2	1	3	
	3-c	基礎底深さ決定				
	3-d	浮基盤の採否	1		1	
	3-e	その他()		2	2	

技術委員会基礎分科会

分類	項目No.	項目	回数			合計
			施工上	検査上	審査上	
4.抗基礎	4-a	抗種設定				
	4-b	抗工法選定	1	8	2	11
	4-c	抗体の断面設計	1			1
	4-d	抗頭処理	2	1		3
	4-e	抗頭固定度				
	4-f	支持力決定(N値)	2	1	1	4
	4-g	正の摩擦力評価				
	4-h	負の摩擦力(NF)評価				1
	4-i	引抜抵抗の評価	2	1	3	
	4-j	水平力分担決定	1			1
	4-k	抗体設計用応力	2			2
	4-l	抗震突出部の取扱い	1			1
	4-m	短い抗の取扱い	1		2	3
	4-n	着替反万能板Hの評価				
	4-o	群抗効果の評価				
	4-p	載荷試験の必要性	1			1
	4-q	その他()	3	1		4
5.基礎スラブ	5-a	版厚				
	5-b	へりあき	3	1	1	5
	5-c	配筋				2
	5-d	その他()				
6.異種基礎	6-a	異種基礎混在	3			3
7.その他()						

(株)山田建築構造事務所
代表取締役 山田裕治

構造の先か、途中か、中間か、上棟後か、神経を使う所です。(基礎は千枚岩を基盤とする直接基礎)結果的には施工サイドの要望もあり基礎梁コンクリート打設後先行して緊張する方法を採りました。この事は建物完成時に基礎梁の伸びを予測しておかなければなりません。このため、支点の水平移動を見込んだ上部構造部材の応力見直しを行った訳です。次は柱(鉄骨主体コンクリート充填型とし梁も同様)に関する事です。主材形状は傾斜柱と梁の接合部を単純化する、又柱断面寸法を統一する等から鋼管が望ましいものとしましたが、接合部の構成上パネル内のダイヤフラム内蔵方式には難点が多いので諦めて、この部分の肉厚を50~60mmの厚肉遠心力铸造とし、梁主材を取り付ける事にしました。接合部の耐力は計算によって確かめ、次に神戸大学の金谷鋼構造研究室にお願いして、実験による耐力の確認も併せて行っております。試験結果は良好であり、これについての詳細は、昭和61年日本建築学会近畿部「鋼管柱とH形はりが斜交した接合部に関する研究」として研究報告集に発表されています。

各府県会員の声(滋賀県)

構造家懇談会への要望

山田政武

滋賀の構造レベルは低く、構造欠陥の建物も多くみられます。構造設計料も、

- 全国的にみて、安くて、規準前と変わらない状態ですので、新規律の簡略化の為の標準設計書作成の御願いと致しまして、
- 柱・梁幅厚比・D S 値の一覧表
- 屋根梁の横補剛の低減

- R C 造切断破壊の防止 $\alpha = 2$ かつ短柱計算で免除
- 鉄骨梁・小梁・柱・プレース等の標準接合の図面化
- 以上を希望します。

特集

構造家懇談会関西支部5年の歴史

昭和56年5月構造家懇談会が設立され、翌57年に関西支部が発足した。構造家懇談会の誕生以来その活躍はめざましく、建築構造の分野で大きな評価をえている。

関西においても総務委員会、事業委員会、広報委員会、技術委員会の活発な活動によって、定例研究会をはじめ講演会や見学会等が頻繁に開催され、会員の交流と研鑽を図っている。関西支部は大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県を対象とし、会員は5月現在172名（内正会員160名）をかぞえ、今後も増加が見込まれている。ここに過去5年間における関西支部の歩みを振り返り、今後も会員各位の会として発展してゆくよう御意見をいただかべく、活動経過を掲載した。併せて、Structure Kansaiの第1号から第17号までの主要記事も取り上げた。

5年間の主行事

昭和57年	2月	・関西支部設立総会	昭和58年	2月	・定例研究会 構造物評価の現状と問題点（林 保氏）
	6月	・定例研究会 薄肉鉄骨の設計（内田直樹氏）		4月	大阪地域における地震入力について（久徳敏治氏）
	9月	先輩構造家に聞く（前川陽一氏）		6月	先輩構造家に聞く（平田定男氏）
	10月	・日本基礎建設協会と技術懇談会		9月	・第2回支部総会 支部組織改革
	11月	・定例研究会 P R C の構造設計監理 地震力に対する基礎設計指針		12月	・P D 「構造家のぞむ」 (山崎泰孝氏、荒井清氏、得田芳弘氏、岡田典治氏)
	12月	・鉄骨建設業協会と技術懇談会 ・支部設立記念講演会 大阪の将来を考える（大西英雄氏） 構造雑感（鷲尾健三氏） 建築家と建築デザイン（柳文彦氏） 特別座談会 支部発足1年を顧みて（会員有志）		9月	・定例研究会 大阪城国際スポーツセンター見学
				12月	・P D 「建築家から構造家への注文」 (出江寛氏、植松啓治氏、中川洋一氏、西部明郎氏)
					・定例研究会 ポートアイランドスポーツセンター見学会
昭和59年	2月	・定例研究会「P C・P R C 構造の現況」 P C・P R C の構造技術訪米調査報告 (鈴木計夫氏)	昭和60年	2月	・定例研究会 最近の杭工法について（山肩邦男氏）
	4月	P C・P R C 技術の紹介 (神鋼鋼線㈱、ビーエスコンクリート㈱)		3月	・大阪国際見本市新会場見学会
	5月	・第3回支部総会 魚木晴夫氏、松谷輝雄氏、和田勉氏 J S C A 関西構造家賞受賞		4月	・第4回支部総会 松岡広之氏 J S C A 関西構造家賞受賞
	7月	・P D 「明日の構造家は育っているか」 (山田稔氏、脇山広三氏、南宏一氏、真塚達夫氏、金澤正明氏)		5月	・講演会 最近の建築鉄骨について（金多潔氏）
	9月	・ゴルフ親睦会		7月	建築鉄骨の問題点（五十嵐定義氏）
	11月	・パソコン有効利用例に関する座談会（ユーザー、メーカー） ・定例研究会 ・大阪市庁舎見学会 ・ゴルフ親睦会 ・講習会「入門R C 構造」 行政からみたR C 構造設計（松岡広之氏） 構造設計を考える（久徳敏治氏） 構造設計例（須賀好富氏、林 保氏、永田完治氏）		8月	建築鉄骨の設計（深井敬三氏） 溶接技術の最近の進歩と今後の傾向（松井繁明氏）
				9月	・ゴルフ親睦会 久徳支部長 日本建築学会賞受賞
				11月	・基礎構造に関するアンケート調査（基礎分析科会） ・講習会 建築基礎設計のための地盤調査計画指針 (加藤裕造氏他)
				12月	・ゴルフ親睦会 業務報酬調査報告会 ・住友生命・ホテルオータン大阪ビル M I D タワー見学会 ・大阪産業大学 P C 見学会

昭和年	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第五回支部総会 窪田育弘氏、瀬川輝雄氏、日下部一氏 J S C A 関西構造家賞受賞 ・講演会「メキシコ地震を考える」 基礎および地盤（大場新太郎氏） 上部構造の設計（南宏一氏、多賀謙藏氏） ・定期研究会 P R C 構造の特性とコスト（P C 分科会） P R C 構造設計チェックポイント（大内山正英氏） P C・P R C 構造設計資料ノート（田中利幸氏） P C・P R C 構造設計監理 チェックポイント（渡辺 勉氏） P D（鈴木計夫氏、須賀好富氏） 	昭和62年	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会「入門鉄骨構造」 特別講演（五十嵐定義氏） 構造設計例（藤田佳広氏、奥本英史氏） P D（松岡広之氏、深井敬三氏、勝丸文彦氏、丸岡義臣氏、長谷川博氏） ・千船リバーサイドビル高層RC見学会 ・第6回支部総会 山田裕二氏 J S C A 関西構造家賞受賞 ・定期研究会 基礎構造における実務上の問題点（基礎分科会）
	4月			3月	
	5月			4月	
	7月				
	9月				
	10月				
	11月				
	61年				

Structure Kansai の 5 年間

V o l .	特 集 記 事	活 動 記 事	コ ラ ム
第 1 号 82・6	関西支部設立 構造家懇談会設立の意義（久徳敏治氏） 協役（能勢善樹氏） 構造のプロ意識をもって（青柳 司氏）	第1委員会の活動（樋口元一氏） 第2委員会の活動（林 保氏）	構造家に言いたいこと（西沢文隆氏） 構造家とは（平田定男氏）
第 2 号 82・11	新耐震設計法実施 1 年を経過して (鞍谷信保氏、岩佐輝夫氏、橋本浩一氏、川本道明氏)	建築構造物の歴史を紐解くにあたって（久徳敏治氏）	構造家と美意識を（彦谷邦一氏） 用語のむつかしさ（前川陽一氏）
第 3 号 83・2	新年を迎えて 新春に想う（久徳敏治氏） 研鑽の年（青柳 司氏） 実態調査の実施（能勢良樹氏） 質の良い構造を（樋口元一氏） 活動の発展（林 保氏）	座談会 構造家懇談会関西支部発足 1 年を省みて (馬瀬芳知氏、山田裕二氏、川村佳則氏、佐久間周治氏、安田光世氏、日下英雄氏、和田 勉氏) P R C 構造とアンボンド工法（松谷輝雄氏）	「構造」ということ（渡辺豊和氏） 目黒のさんま（小泉 昇氏）
第 4 号 83・6	支部総会 握手期をこえて（久徳敏治氏）	今後の支部活動および運営について 総務委員の活動（能勢善樹氏）事業委員会の活動（真塚達夫氏）技術委員会の活動（青柳 司氏）広報委員会の活動（樋口元一氏）	昭和58年日本海中部地震被害調査速報（水畠耕治氏） 夫婦（横山誠一氏）
第 5 号 83・9	大阪築城400年まつりを迎えて 古地形と建築の基礎地盤（中島志郎氏） 大阪城天守閣今昔（長谷川博氏）	技術委員会分科会の活動状況 鉄骨分科会（内田直樹氏） P C 分科会（林 保氏）PC プレファブ分科会（松谷輝雄氏）基礎分科会（加藤裕造氏）コンピュータ分科会（青柳 司氏）耐震設計分科会（久徳敏治氏）	期待すること（大辻真喜夫氏） 構造屋から構造家への脱皮を（奥島正一氏）
第 6 号 84・1	新春をむかえて さまざまな「甲子園」を（津田 康氏） 土法改正における建築士の資格について（総務委員会）	建築構造物の歴史を紐解く「野村銀行本店」（久徳敏治氏） 構造設計を考える 構造計画について（平田定男氏） 構造計画にあたっての所感（佐久間周二氏） 地下鉄振動と不等沈下対策（川村佳則氏）	和風について考える（山崎泰孝氏） 設備屋から構造屋へ（日根東治氏）
第 7 号 84・4	安藤忠雄おおいに語る（安藤忠雄氏、久徳敏治氏）	定期研究会 アメリカにおける P C 構造の最新事情を観察して（鈴木計氏）	技術力の価値（高木嗣郎氏） 設備における経済性の評価（藤本 健氏）
第 8 号 84・7	第3回支部総会 支部長挨拶（久徳敏治氏） J S C A 関西構造家賞表彰制度について（能勢善樹氏） 第1回受賞によせて（魚木晴夫氏、松谷輝雄氏、和田 勉氏） 全綱連「鉄骨技術者の資格認定」について（内田直樹氏）	P D 明日の構造家は育っているか（山田 稔氏、脇山広三氏、南 宏一氏、真塚達夫氏、金澤正明氏） 構造設計を考える フレームの水平力分担について（小島達男氏）構造設計に当たっての一 所感（安田光世氏） 建築構造物の歴史を紐解く 「阪急ビルディング」（久徳敏治）	今考えていること（太田隆信氏） 施工順序と架構応力（若林嘉津雄氏）

V o l .	特 集 記 事	活 動 記 事	コ ラ ム
第 9 号 84・11	建築主から見た構造設計 (西村良平氏、蒲地至氏、高井了氏、奥村音造氏、今中利和氏、吉村太一氏)	地震力に対する基礎の設計指針について(基礎分科会)	O A 化の波(鷲山広三氏) 用美相即(辻野純徳氏)
第 10 号 85・5	大阪における最近の大型建築物の紹介 ツイン21の構造概要(棚橋秀光氏) 都ホテル大阪(犬飼一夫氏)吉本ビルディングの構造設計(保野博氏)	定例研究会 最近の杭基礎工法の問題点(山肩邦男氏)場所打ちコンクリート打底杭について(柴田泰孝氏)低公害工法について(渡辺修氏)	動向の静(森田司郎氏) 分かる(舟橋國男氏)
第 11 号 85・7	第 4 回支部総会 支部長挨拶(久徳敏治氏) J S C A 関西構造家賞表彰(能勢善樹氏) 第 2 回受賞によせて(松岡広之氏) 講演会 建築鉄骨の設計(深井敬三氏)最近の建築鉄骨について(金多潔氏)溶接技術の最近の進歩と今後の傾向(松井繁明氏)建築鉄骨の問題点(五十嵐定義氏)	技術委員会分科会の活動状況 鉄骨分科会(内田直樹氏)R C 分科会(須賀好富氏)P C プレファブ分科会(松谷輝雄氏)基礎分科会(加藤裕造氏)コンピュータ分科会(青柳司氏)耐震設計分科会(久徳敏治氏)	
第 12 号 85・10	久徳支部長日本建築学会賞受賞 学会賞受賞によせて(久徳敏治氏) 久徳氏の受賞を祝って(森田司郎氏、永田祐三氏、能勢善樹氏) 若林先生日本建築総合試験所所長就任 所長就任の言葉(若林寛氏)	技術委員会報告「固形タブについて」(鉄骨分科会)	
第 13 号 86・2	新春をむかえて 放談“コンプレックスを大切にしよう” (久徳敏治氏)技術を楽しんで(青柳司氏)構造懸は期待の方向に進んでいるのか(能勢善樹氏)新春に思うこと(真塚達夫氏)新春雑感(樋口元一氏)	メキシコ地震とトラロテルコ住宅団地(八木大児氏) 技術委員会報告「アンケート調査結果」(基礎分科会) 住友生命ニューオータニ見学会(瀬川輝夫氏) 建築構造物の歴史を紐解く「大阪神ビルディング」(樋口元一氏)	面白と何れ(出江寛氏) 創る(長田正男氏)
第 14 号 86・6	第 5 回支部総会 支部長挨拶(久徳敏治氏) J S C A 関西構造家賞について(能勢善樹氏) 第 3 回受賞によせて(窪田育宏氏、瀬川輝夫氏、日下部一一氏) 講演会 メキシコ地震を考える 基礎および地盤(大場新太郎氏)上部構造の設計(南宏一氏、多賀謙三氏)	P R C 構造の特性とコスト(P C プレファブ分科会) 技術委員会報告(コンピュータ分科会) 技術委員会分科会の活動状況 鉄骨分科会(内田直樹氏)R C 分科会(須賀好富氏)P C プレファブ分科会(松谷輝雄氏)基礎分科会(加藤裕造氏)コンピュータ分科会(青柳司氏)耐震設計分科会(金澤正明氏) 大阪産業大学 P C 構造見学会(八木貞樹氏)	
第 15 号 86・8	21世紀をめざす“関西の大規模プロジェクト” 大阪における最近の大型建築物の紹介 ベルパークシティ G 棟構造概要(関根秀次氏)大阪府立体育館改築工事(山口猛氏)複合構造による高層事務所ビルの設計(八木貞樹氏)梅田セントービルの紹介(奥本英史氏)	技術委員会報告(R C 分科会)	
第 16 号 86・11	構造法令専門者制度発足 構造法令専門者制度の発足にあたって (吉村桂造氏)構造法令専門者制度について(平田定男氏)	大阪府立体育館見学記(境敏博氏) 団体同好会誕生(実業委員会)	外人の日本技術者観(Alan B. Clark) 夢とロマンと研究と(山田稔氏)
第 17 号 87・2	1987 新春 卯年を迎えて(久徳敏治氏)新年を迎えて(青柳司氏)めでたさもなかば(能勢善樹氏)新年を迎えて(真塚達夫氏) 新春を迎えて(樋口元一氏) 支部 5 周年記念講演会 木の心(西岡常一氏)東と西の技術(吉田光邦氏)	各府県会員の声 和歌山県の地域整備計画について(日下英雄氏) 大阪文化服装学院 X 型配筋見学記(三原清敬氏)	スケッチをすること(南宏一氏) クラゲのようなポストモダンを脱して(東孝光氏)

入門鉄骨構造講習会

昭和62年2月23日、建設交流会館、グリーンホールにて、構造家懇談会関西支部主催の「鉄骨構造講習会」が、昨年の「鉄筋コンクリート構造講習会」につづいて開催された。

最初に、事業委員長である真塚氏の挨拶の後、大阪大学の五十嵐教授をお迎えし、特別講演が行われた。先生は、超高層建築物と大空間建築物に見られる鉄骨構造の現状を、国内に限らず、海外の建築物を実例に取り上げて紹介され、鉄骨構造の将来の展望が大きく開かれていることを述べられた。また、

材料面についても、今後さらに高強度な鉄骨が建築物に使用され、ますます、規模の大きな、意匠のニーズに合った構造体へと飛躍していくことへ期待をこめ、鉄骨構造の将来性を見据えた御講演がされた。

その後、構造家懇談会出版の「S建築構造設計・実例と解説」のテキストにそって、3名の講師によって説明が行われた。
①. 構造計画および計算 ②. 実例1(工場建築物の設計例) ③. 実例2(事務所ビルの設計例) の3題に分けられ、本題にそった説明の他、実際の設計の現

状、設計上の注意点、詳細設計への配慮、施工性の考慮を盛り込んだ内容として説明された。最後に、尼崎市の建築審査課の松岡氏と構造家懇談会・鉄骨分科会のメンバー4名をパネラーとして迎え、建築鉄骨に関するディスカッションが行われた。各パネラーが「最近の建築鉄骨の現状」を主題として、各自話題を提供し、それについてディスカッションが行われ、受講者の中からもいろいろな質疑がパネラーに出され、盛況のうちに閉会した。

見学記

「千船リバーサイドビルC棟」見学会に参加して

河島 章男

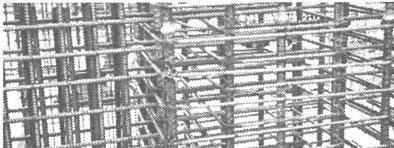
3月31日(火曜日)梅田から阪神電車に15分ぐらい乗ると、千船駅に着いた。駅から10分ぐらい北東へ歩くと、神崎川べりに高層集合住宅がみえてきた。そこが大阪市西淀川区佃、竹中工務店設計・施工の「千船リバーサイドビル」の見学会場である。現場事務所一階会議室は、最前列に一部空席があるだけで、ほぼ満席であった。

午後二時から四時まで、竹中工務店の方々による、建物概要説明からはじまり、現場見学と施工実験、管理に関する説明、ビデオ映写および質疑応答が行なわれた。

建物概要説明によると当建物は、RC造、地上19階建、塔屋2階、X方向7スパン(37.8m)、Y方向4スパン(23.2m)の凹型平面形で、軒高は53.75mである。また、XY方向ともラーメン構造で、住

宅の戸境壁を耐震壁とすることにより、剛性の確保および柱、はり断面の縮小をはかっている。偏心をさけるため、平面の中央部に耐震壁を配置している。

コンクリートは、強度420~240kg/cm²



の流動化コンクリートを使用し、主筋は、SD40、35、せん断補強筋は、引張強度8000kg/cm²の高強度鉄筋を使用し、柱、はりの拘束効果とせん断耐力を期待するとともに建物の変形能力の向上を計っているとのことでした。

次に、建物概要説明のあと、現場見学(6階柱、壁配筋中)が行なわれた。当

建物は、在来工法でありその意味では特に目新しいものはないように思われた。耐震壁架構のまわりの柱は、むこう側が見えないくらい、密な配筋量であったが、配筋位置の精度確保は正確で、品質管理に対する姿勢がうかがえた。また現場内の整理整頓も徹底していた。

次に、質疑応答が行なわれた。高層RC構造は、最近の話題に富んだものであるため、質疑内容も設計、施工、品質、コスト、材料、行政指導に関するもの等、幅広いものだった。

最後に私の所感を述べると、品質管理について、一般建物に採り入れられる内容も多く、高層RC建物の材料、施工法等が、身近なものに感じられた。

(熊谷組設計部構造課)

昭和62年度関西支部技術委員会分科会活動予定

技術委員会分科会は6分科会が活動しています。この分科会は全会員を対象にしたものですから誰でも参加できます。

今年度の予定は下表が原則になっていますが、変更される場合もあり、明確化されていない分科会もあります。関西支部事務局へ連絡戴ければ案内します。

なるべく多数の方々が出席され、色々な御意見を聞かせていただきたいとおもいます。尚、PCプレファブ分科会では、毎回大阪大学の鈴木計夫教授をおまねきしています。他の分科会でも、専門家のお話を聞く機会も沢山あります。

分科会名	鉄骨	R C	PCプレファブ	基礎	コンピュータ	耐震設計
主 催	内田直樹	須賀好富	松谷輝雄	加藤裕造	青柳司	金澤正明
開 催 日	偶数月 第3水曜日	随時	奇数月 第3金曜日	随時 (月1回程度)	毎月 第4火曜日	未定
場 所	日建設計	未定	マンション ローラン南森町	未定	日建設計	未定

●支部の動き

- ・2/17 支部理事会一決算、事業報告
- ・3/5 総務委員会
- ・技術委員会分科会活動
鉄骨—2/19、3/27 PC—3/20
基礎—2/27、3/16
コンピューター—3/24
- ・講習会およびパネルディスカッション
3/23 於建設交流館 参加者80名
「入門鉄骨構造」
- 特別講演 五十嵐定義 大阪大学教授
講師 構造計画および計算
深井敬三氏（日建設計）

実例1 藤田佳広氏（大林組）

実例2 奥本英史氏（竹中工務店）

話題提供

勝丸文彦氏（構造計画研究所）長谷川博氏（大林組）松岡広之氏（尼崎市）丸岡義臣氏（竹中工務店）

・現場見学会

3/31千船リバーサイドビルC棟
高層RC造集合住宅 参加者26名

・4/9 昭和61年度表彰選考委員会

・支部総会

4/23於建設交流館 出席者50名

・定例研究会

4/23於建設交流館 参加者85名
「基礎構造における実務上の問題点」

特別講演 八木真太郎関大助教授

坂平哲也大阪市総計局建築
指導課係長

解説 岡田克幸（昭和設計）

角 彰（竹中工務店）

棚橋秀光（日建設計）

司会 加藤裕造（竹中工務店）

・懇親会

4/23於建設交流館 参加者56名

●東京の動き

5/29鉄鋼会館（東京）にて構造家懇親会総会が開催されました。矢野代表は挨拶の中で、当会を取りまく大きな時代の潮流として、国際化と専門の分化の進行があげられその対応を迫られるであろう。そのためにも未だ機が熟していない感があるが「法人化」を積極的に進めて行かねばならない。いずれにしても62年度は大変な年になりそうであるが時代の流れに対応出来る構造懇にして行きたい旨を述べた。後、理事の改選が行われ、関西支部より樋口元一、久徳敏治、能勢善樹の各氏が再選された。尚、青柳司、林保の両氏は留任となっている。終了後、懇親会が200名強の参加者を得て盛大に催されました。

白色を楽しむ



中田啓一

冬になると京都では、私の生れ育った大阪と異なり、雪がよく降る。屋根に積もったこんもりとした雪に太陽の光が当り、反射した時の美しさは見事である。学生生活を京都で過ごした私は何度も、この美しさに感動した。こんもりした白い雪は多くの人の思いを託したような純白のゆう葉を用いた陶器が、故十代三輪休雪によって創り出され、十一代休雪によって発展されている。

最近、白色は1つの流行であろうか、広く好まれるように成って来ている。つい先日、新聞紙面に目を通していると、最近の色の流行としと白、それも紙白が好まれているとの記事があった。私も白、特に純白を好む一人である。しかし、一般に白といわれている色は、グレー、ブラウンなどが入っている場合が多く、白の範囲は人によって可成り差がある。このため、白という言葉は当時者の間で誤解を生むことも多々ある。

日本人は古くから優れた白色を生み出しており、なかにはヨーロッパに影響を与えたものも多く見られる。古くは、有田の白磁器がヨーロッパで珍重され、ボーンチャイナを生み出している。この磁器の白さを主題として、その美しさを生かした色絵磁器は歴代の柿右衛門の作品の特色として今もうけつがれている。絵画の世界では、藤田嗣治の創立した白色が、パリでgrand fond blancとして持てはやされた。また、建築の世界では白いしつくい壁が、長い時代を超えて我々を魅了している。

私の愛用の酒造は十一代休雪の作である。このこんもりした純白の盃を使って酒をのむとあたかも雪見酒の気分にさえなり、私を楽しませてくれる。今、私は自宅を建築中であり、雪の積もった屋根を思い浮かべ、白色のS瓦を用いることにしている。現在、この瓦を選んでいる最中であるが、どのような雰囲気になるか、期待と不安が交錯している所である。

（近畿大学助教授）

短い旅から



高松伸

ほんの数日前、バルセロナからフランクフルトを廻り、ベルリンを経て帰国した。大方の諸兄と寸分違わず、ガウディおじさんの偉業に色を失い、完成したばかりの「フランクフルト・シティ・アート・ギャラリー」の前に佇んで、去年長谷川逸子女史に敗れてしまった湘南台文化センターはきっとこれくらいの規模だったんだなあ…などと少なからずメソメソしてしまったりしたのだが、なにより度胸を抜かれたのは予想通り現在進行中のベルリンIBM(Internationale Bauausstellung Berlin ベルリン国際建築展)であった。当のベルリンが生誕750周年ということで、少々急ごしらえの感が無きにしもあらずにしても、あれだけの都市的事業を新旧様々な世界の建築家の手に委ねる英断は、どう考えても日本のお役所には期待できぬことであろうなどと、なによりもそんな無力感がつい先にたってしまった。それにしても極端なローコストと歴史（むしろここでは精神的な歴史と考えた方がよい。）の荷重下にもかかわらず、各々の建築家の手によって達成されつつある表現のレベルには頭を下げる他ない。なおかつそのほとんどが我々の言うところの単なるアパートメントである。ややもすれば経済性を理由に、体良く表現の問題を迂回してしまいがちな我々にとって、この実際に建ちつつある展覧会は、建築に本来備わるべき自律的な表現にむけての十分鍛えあげられた挑戦と、逆説的な警告であるといわざるを得まい。ともあれ帰国したばかりの今、僕は出国前にフィニッシュしたばかりの仕事のやり直しを考えている。旅のあとでの設計変更というのは現場も嫌がる設計屋特有の病と聞く。とうとう今回は僕もそれにかかってしまったという訳だ。

（高松伸建築設計）

大阪府法令建築事務所 構造法令専門者資格認定試験実施

昨年、大阪府下では構造法令専門者制度が発足し、資格審査と研修会が実施され第1回目の有資格者が誕生した。今年からは試験制度が取り入れられ、今春試験が行われた。そこで今回の考査小委員会の主査をされた須賀先生から感想をお寄せいただいた。

大阪府建築士事務所協会では行政のバックアップのもとに構造法令専門者の資格認定試験を行ったことは周知のことである。これによって一部構造計算書の添付の省略も可能となり、構造家にとっては一步前進といえよう。

試験は約270名の受験者によって行われ合格率は約25%であった。試験問題は択一式（60点）と論文式（計算）（40点）

の二種類が用意された。構造力学、各種構造、構造計画などの問題が考査小委員会の委員の懇親的努力で何回かの会合の後に作成されたが極めて基本的な問題であった。しかし、たとえば偏心率の計算問題で、受験者は日頃コンピュータによつて計算しているので、いざ手計算となるとやさしい問題でも解けない結果になっていた。総じてむつかしい問題との感想

はあったが合格者はそれでも60点は確保しており日頃の努力が報われている。コンピュータの一つの弊害がここにも露呈しており、今後構造家の見本的事項の整理・勉強が望まれるが、これによってデザイナーとの共同作業を強力にすすめることができると考える。

近畿大学 須賀好富

●会員の紹介

岡田 宏

勤 株式会社大日本工店
設計部構造課



趣 音楽鑑賞、
アマチュア無線

免震構造などメカニックな機構が、設計の現場にも入って来た。建物を地震から開放することで、本来の芸術性もみなおされよう。異分野からの複合化の中で、古代からの建築と構造の歴史を今一度振り返り、今後の糧としたい。

大塚 積

勤 清水建設株式会社 設計本部
大阪支店設計部



数年前から勧められながら延ばし延ばしになり漸く入会した次第です。昨年2回支部開催の見学会に参加して通常の見学会とは異なり興味深く参考になりました。構造設計分野の社会的理諦を高める場として本会の活動に期待をかける者の一人です。気分転換に暇を見つけて油彩画を楽しんでいます。

ペスグロの78には少し及ばなかったけれども距離の長い車コース（3230m）でベストの39のスコアを出し、少しトリッキーで乱れやすい南コース（3200m）で43を出された青木氏（HD18大洋コンクリート本社）が37各の参加者をおさえて優勝されました。当日は曇り空で日に焼ける心配もなくのびのびとコースコンディション最高のフェアフェイを大事に大事に（ラフばかり打込むんでいた人もあります）一球入魂で皆様のがんばった結

小菅 興三一

勤 大林組電子計算
センター大阪電算課



趣 将棋四段、P.C.

もともと構造家であったのが、職務が変わり、意匠家から計算家（知識家？）に転身しました。ホストコンピュータの世界はパソコン、ミニコンの追撃を受けて漢字化、カラー化にも努力をしていますがなかなか大変です。

遠山 英男

勤 東西建築サービス株式会社
設計監理部



多忙の中、夢中で仕事をこなしていたが、当然の事。常識だと思っていた事も考え直してみると答が出てこない。もっと物事に疑問を持とう、ひとつひとつ問い合わせてみようという気持になったのが入会させて頂いた動機です。よろしく。

第7回構造家懇談会関西支部 ゴルフ親睦会 報告

果が右表です。

成績表 昭和62年5月27日（日）於伏尾台GC

参加37名（★印は初参加）

氏名	西	東	GROSS	H.D.	NET	RANK
1 青木 仁	39	43	82	18	64	優勝
2 高橋 尚	46	51	97	30	67	2位
3 広浜 武	42	40	82	13	67	3位
4 渡辺 博	48	44	92	22	70	4位
5 梅木 信	40	38	78	7	71	5位
6 真塚 達夫	43	39	82	11	71	
7 森 誠夫	42	45	87	15	72	7位
8 ★木下 弘文	57	39	96	23	73	
9 浅沼 勝	45	46	91	18	73	
10 川村 佳則	47	47	94	70	74	
11 ★松谷 雄	46	48	94	18	76	10位
12 ★西田 清	53	48	101	24	77	
13 鳥瀬 芳知	42	42	84	7	77	
14 ★八木 博繁	49	48	97	20	77	
15 ★白石 育近	45	51	96	19	77	15位
16 ★大内山 正英	51	52	103	25	78	
17 山口 和成	44	48	92	13	79	
18 侯野 博	57	59	116	36	80	
19 五十嵐 定義	56	56	112	30	82	
20 大飼 一夫	52	55	107	25	82	20位
21 南田 久	53	55	108	26	82	
22 勝丸 文彦	51	55	106	24	82	
23 西座 広昌	56	48	104	22	82	
24 安田 光世	48	50	98	15	83	
25 ★村上 肇一	50	45	95	11	84	25位
26 徳永 雄一郎	59	61	120	36	84	
27 松浦 英司	53	61	114	30	84	
28 浦川 盛司	45	54	99	12	87	
29 吉田 博史	57	58	115	28	87	
30 須賀 好富	54	48	102	14	88	
31 伊藤 孝一	49	60	109	21	88	
32 佐久間 周治	62	66	128	40	88	
33 三宅 裕司	64	60	124	36	88	
34 田中 昭美	56	56	112	22	90	
35 富野 敦三	54	60	114	20	74	
36 谷尾 俊弘	53	66	119	21	98	B.B.
37 川村 肇一	65	71	136	36	100	

ニヤビン 浦川、須賀、八木、木下

ドラゴン 森、浅沼

発行 構造家懇談会関西支部事務局
川崎建築構造研究所 TEL 231-3112